

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902140		
法人名	有限会社 こもれ陽		
事業所名	グループホームこもれ陽		
所在地	北海道旭川市春光台3条9丁目2番地18号		
自己評価作成日	令和3年12月20日	評価結果市町村受理日	令和4年4月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosoCd=0172902140-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和4年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地から離れた福祉村の一角にあり、静かで自然の多い環境中で、穏やかに共同生活を送れるよう支援をしている。花見や紅葉狩りなどドライブを兼ねて外出する機会を作ったり、日常的に散歩などをしながら、社会とのつながりを少しでも継続できるようにしています。お元気な方は職員の付き添いの中、回転寿司を食べに行ったり買い物に行ったりしています。毎月のカレンダー作りや季節の行事などの展示物の作成を皆さんに手伝ってもらったり、体操や歌を歌うなどのレクリエーションを通して、認知症の進行防止に努めています。職員と入居者の関係性も良く、笑いが絶えないホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は旭川市の郊外、福祉村の一角の自然に恵まれた閑静な住宅街に位置する1部2階建て1ユニットのグループホームで、隣接して同法人が運営する有料老人ホームと訪問介護事業所がある。玄関に入ると左側に事務所があり、中央がゆったりした食堂兼リビングで温度湿度が適正に管理され、天窓からは陽光が差し込み彩光や風通しもよい。周囲がぐるりと居室になっており突き当りに台所がある。浴室にはリフトを設置し、安心と安全に配慮した入浴介助を行っている。食事面では菜園で育てた新鮮な野菜を取り入れ、行事食や外食も工夫して利用者の満足感にえている。高校生や中学生向けの認知症サポーター養成講座の講師を務めるなど明るく活動的で、ホーム内も笑顔があふれている。コロナ禍によって地域との交流が難しい状況ではあるが、地域の商工会で行っている「ろうそく出せ」の子供たちを受け入れ交流している。職員は親切でやさしく、掃除、洗濯など利用者自身ができることは無理せず任せ、やりがいを見出すよう支援したり、持っている能力を引き出すようなアプローチを行って、単にケア中心ではなく、生活の充実を心がけている。利用者はレクリエーションやリハビリ体操をしたり、テレビを見たり、塗り絵や会話をするなど思い思いにゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の唱和などはしていないが、施設内の目立つところに掲示し、いつでも確認ができるようにしている。	理念は、パンフレットに掲載し、事業所内にも掲示して職員で共有しケアの実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内の散歩や、保育園行事の見学などで交流の機会を確保するようにしているが、コロナ禍で思うようにできていない現状もある。重機で近隣の除雪を手伝ったりもしている。	町内会に加入し、コロナ禍でも感染対策をして地元ラーメン屋さんのデリバリー車を利用してラーメンを食べるなどして交流に努めている。又、中・高校生を対象とした認知症講座(現在はズームでの講座)の講師を努めている。保育園の行事見学など地域との交流を日常的に行っていたが自粛している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターキャラバン活動に参加し、啓蒙活動に努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催を通じて、年内の行事や運営状況を報告させていただいている。委員からの質問や意見を基に運営の向上に向けて取り組んでいる。	2か月に1回、家族、町内会長、民生委員、地域住民、市職員などが出席し、利用者の生活の様子や運営状況の報告、行事などを報告し意見や助言を得てサービス向上に活かしている。コロナ対策のため一部の期間文書を送付して意見等を聞いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点や相談等があれば、担当課を訪れて助言をいただくことを継続している。また、グループホーム協会道北ブロックの事務局を務めていることから、団体として情報の共有などをさせていただいている。	市の担当者とは、運営状況やケアサービスの取り組み等、情報交換や意見交換を積極的に行い、指導、助言を得て協力関係を築いている。また道北ブロックの事務局を務め、情報を共有することで連携を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は緊急やむを得ない場合を除き、行わない方針に変わりはない。定期的な委員会の開催や、自主的に研修会も行う。	身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催し、身体拘束となる行為とそれに伴う弊害は、研修や定期的な会議で理解し職員で共有している。拘束の具体的な禁止行為や不適切な言動について指針やマニュアルから正しく理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	12月に研修会を行い、あらためて虐待の種類等を認識し自己の介護と照らし合わせている。定期的な委員会の開催により職員間で情報を共有し、意識付けをしている。			

グループホームこもれ陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職能団体が作成した権利擁護の資料を確認したり、会議の際に時間を作って勉強会を行うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重ねてご説明し、理解をいただいている。不明な点はいつでも遠慮なく、お問い合わせいただきたいことも合わせてお伝えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの要望などには内容の確認を行い、対応できることは対応させていただくことを続けている。	利用者の意見・要望は毎日の会話などから把握し、家族へは利用者の様子などを、年3回発行のホームだよりや個別のお便りでお知らせしている。家族からの意見や要望は電話や来訪時に聞き取るようにし、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議のみならず、日常的にコミュニケーションをとるようして、改善できることなどを聴取するようになっている。	管理者は日頃から話し易い雰囲気づくりを心掛けている。月1回の職員会議や年度末に実施している個人面談で、職員の意見や提案を聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談や日々の関りを通して、個々人の状況を把握したり、一時的に反映したりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修への参加をはじめ、昨今ではZOOMを利用しての研修会も開催が多いことから学びの機会を提供している。しかし、日々人員がギリギリなこともあり、送り出しづらい現状もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護基礎研修や実践者研修等への参加を通じて知識や技術の習得を目指したいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添う介護を基本とし、傾聴や同意など精神的なケアへの配慮を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や意見には真摯に耳を傾け、一緒に解決していく姿勢をもって対応し続けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者及びご家族の話を十分に傾聴し、本人やご家族の希望が理解でき、反映できるところは反映するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やおやつと一緒に食し、一緒に掃除や洗濯物たたみをしたり、行事などで一緒に楽しんで共同生活をする意識付けをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告や面会時の情報提供を行いながら、ご家族とも連携し、共にご本人を支えていく関係づくりをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆やお正月など、家族関係の継続となるような対応をさせていただいている。その他のことは、コロナ禍により継続が難しくなっているが、時がくれば再開したい。	鷹栖パレットヒルズに花見を兼ねて行ったり、訪問理容、買い物、家族と一緒に墓参りや外泊、外食など 馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆でレクリエーションをしたり、食事や体操をしている。席順なども相性を考慮して互いに支え合えるような配置を考慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もキーパーソンだったご家族などが、草刈りをして下さったり、お菓子を提供して下さいます。逆に、介護の相談に乗るなど、関りが継続されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人らしく生活が継続していけるようにアセスメントを大事にし、支援の内容に反映している。自分の意思を出しづらい方は、ご家族などに相談しながら意向を予測し方向性を出している。	日々の関わりの中で利用者の希望、意向を把握するように努めている。意思疎通が困難な場合は、表情や仕草、生活記録、家族の情報などから本人本位に判断している。常に利用者主体の生活が維持できるよう支援し、情報は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の確認を行い、スペースに限りがあるものの、ゆかりのある私物を持ち込んで頂いたり、住みよい環境・居住スペース作りに配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要以上のケアの提供はせず、できることは自分で行っていただけよう、声掛け・見守りを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にとって一番必要のある支援を、様々な角度から取り入れられるようチームで検討し、支援の内容を模索している。	利用者や家族の意向、職員の意見などを反映させて、短期6ヶ月、長期1年毎に介護計画を作成し家族の確認を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況は一日の記録用紙に記載。変化のあったこと、または気が付いたことなどは言葉で伝えると同時に、連絡ノートなど記録に残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り個人のニーズに応えられるよう、幅広い価値観で対応している。ご家族からの希望も考慮し、その人の為のオリジナルな対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にあって地域との交流が難しい状況ではあるが、地域の商工会で行っている「ろうそく出せ」の子供たちを受け入れたりし、交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望をお聞きし、かかりつけ医を含め、その他精神科、皮膚科、眼科など必要な専門医受診を行っている。	利用者、家族が希望するかかりつけ医を受診し適切な医療を受けられるよう支援している。通院介助は管理者が行い、受診結果を家族に知らせている。協力医が月2回往診し、看護師が週1回訪問して利用者の健康管理を行っている。緊急時も適切な医療を受けられるよう連携体制ができています。	

グループホームこもれ陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医と同じ医院から週に1回連携看護師が入居者の状態を見に来てくれている。これにより小まめな情報交換と観察ができ、素早く対処できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、主治医及び入院先の相談員などと小まめに情報交換を行い、最善を尽くせるよう考慮している。こちらで相手を評価せず苦手な医療機関を作らないよう柔軟に対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状や認知症の状態の変化など都度主治医やご家族と情報を共有し、意識を共有することに努めている。その上で、ご本人とご家族の希望と施設のできることを照らし合わせ方向性を決めている。	入居時に利用者、家族に重度化や終末期について説明し同意を得ている。終末期には家族に意思確認を行い、看取り希望の場合は「看取り介護同意書」を交わし確認印を得ている。家族や医療関係者、職員が連携し希望に添える最期を迎えられるように支援している。	医師の指示の下連携して看取り支援を行っている。重度化や終末期ケアをより一層充実させるため、更なる職員教育や研修を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、施設長、主治医への連絡マニュアルを使用し、素早い対応を心掛けている。事故についても同様だが、予防することが第一と考え、支援している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災時における避難訓練を実施し、緊急の連絡網には地域の有志の名前を入れさせていただき、有事の際にはご協力いただける体制づくりをしている。	年に2回夜間想定避難訓練を消防署の指導の下、地域の参加協力も得て行っている。現在、地域の消防団にも災害時の協力を依頼している。備品など備蓄品を整備して災害対策を行い、地域の協力を得た緊急連絡網も作成している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや接遇の面で気を付けており、程よい親しみを持ちながら対応している。	一人ひとりの気持ちを大切に言葉がけに気をつけ、呼称は「さん」付けを基本とし、尊厳や誇りを損ねないよう努めている。人格を尊重した接遇の研修会や、スピーチロックについて知識とスキルを深める内部研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定の機会を保てるような、相手に考える「間」を作れるよう、声掛けを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の生活スケジュールと各個人の生活ペースを照らし合わせながら予定を組んでいるが、その時その時で気分は変動するので、都度変化にも対応できる対応を意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを憂慮し、また選択できるような声掛けに務めている。		

グループホームこもれ陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食事の配膳・下膳やお箸などのセッティングを行っている。お好み焼きなどは一緒に焼いたりし、楽しみながら行っている。	食事は自家菜園で収穫した野菜を取り入れながら職員が交代で調理している。利用者は能力に応じ配膳・片づけ等を行い、職員と一緒に食卓を囲んでいる。施設長の発案で移動販売車に来てもらいラーメンを堪能したり、焼き芋パーティーをするなどコロナ禍にあっても様々な工夫をして食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを行うほか、定期的な訪問診療の採血により栄養状態を調べ、医師の指示の下、塩分の調節や間食の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い、磨き残しや支援が必要な方への介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人のADLや気持ちを鑑みながら、出来る範囲でトイレ誘導を行っている。排泄チェック表を活用しパターンを考えながら支援している。	排泄チェック表を使用して利用者個々の排泄パターンを把握し、時間や仕草、表情を見ながら声かけ誘導を行ってトイレでの自立排泄に向けた支援をしている。入居時、紙おむつ使用の利用者がバットになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に強制的にならないように小めな声掛けと支援で水分摂取量に気を配っている。また、歩くことなど運動面でも意識付けを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回行っている。利用者の体調や気持ちなどの状態を考慮しながら、楽しめるように支援している。	週2回を目安に体調を確認しながら入浴支援を行っている。浴室にはリフトが設置しており、利用者や介助職員は身体の安定が保たれ安心安全につながる入浴介助となっている。入浴拒否者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休息や、夜間の消灯、物音への配慮など意識している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常勤職員が、医師・看護師・薬剤師の指示のもと管理し、服薬を忘れないよう声掛けをしたりして支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のリハビリ体操、外出、映画やドラマ鑑賞、塗り絵、雑誌を見るなど会話をたのしみつつ行っている。また、テーブル拭きや掃除機かけなど自分の役割を率先して行っている。		

グループホームこもれ陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で行動範囲と機会が減ってしまったが、近所への散歩などは日常的に行っている。ご家族との交流も、コロナの状況を見つ、感染対策をしっかりとしながら関わり合いを保てるように努めている。	周辺の散歩や買い物、菜園の手伝いなどで日常的に外出したり、外気に触れるよう支援している。季節に応じてお花見や紅葉狩りでドライブに出かけたり、家族とのお墓参りや外泊、外食など、うるおいと変化を提供している。現在コロナ禍で自粛しているものもあるが、工夫することで楽しい環境作りをしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に外出していたが、コロナ禍に入ってから、代行で買い物をすることが増えた。テレビなどで見た「欲しい物」を購入できるよう支援したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、またはこちらからおすすめして電話を掛けたり、LINEのテレビ電話などで関りを持つようにしている。お手紙のやり取りもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量に制限を設けたり、レースのカーテンを開けて外の様子が分かるようにしたりして、環境づくりを心掛けている。	共用空間は広くゆったりとしていて中央に食堂とリビングがあり、天窓からは陽光が射し込み明るく、風通しも良く、温度や湿度も適正に管理されている。事務所や台所からは見通しが良く利用者や職員の安心に繋がっている。壁には、季節に合わせて手工芸品の飾り物や行事の写真などが掲示され、季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで話をしながらテレビを見たり、一緒に遊んだり、それぞれ自由に生活をしている。職員はそれぞれに対応し、過不足を補っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度品など限りあるスペースではあるが、持ち込んでいただいている。また、本人の生活に合うような配置などを考慮し、居心地が悪くならないように意識している。	居室にはベッド、洗面台が備え付けられ、使い慣れた家具や仏壇、携帯電話など馴染みの物を持ち込み、家族の写真や趣味の物を自由に飾ったりして、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすが通れるスペースや、手すりの設置、テレビ前には大きめのソファを置いている。建物内の移動は自由に、職員は見守りを行うようにしている。		